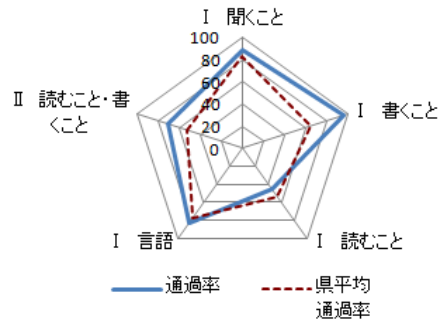


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 78.8%, 県 68.0%)

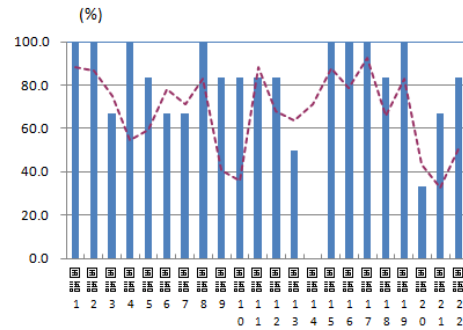
領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(国語)



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において、タイプⅠは80.6%、タイプⅡは70.8%の通過率となっている。タイプⅠの聞くこと、書くこと、言語事項とタイプⅡの読むこと・書くことが県平均を上回った。しかし、タイプⅠの読むことが県平均よりも8.7ポイント下回った。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

- ・昨年度課題であった、「情報の取り出し・情報を関連付けた記述」の力について、昨年度よりも51.3ポイント上昇した。県平均と比較をしても23.3ポイント上回り、取組の成果が見られた。
- ・昨年度課題であった、「中心となる語や文の把握」については、今年度は物語文だったため直接比較はできないが、物語文であっても、叙述をもとに考える力が十分ではない。

重点課題

【課題1】

場面の移り変わりに注意しながら、叙述をもとにして登場人物の気持ちをとらえ、その変化の理由を説明する力に課題がある。(通過率0%)

→条件①のみ満たしている児童50%、条件を全く満たせない児童50%

【課題2】

目的や必要に応じて情報を取り出し、それらを関係づけて書く力に課題がある。(通過率33.3%)

→アと答えた児童33.3%、ウと答えた児童16.7%、無回答の児童16.7%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

登場人物の気持ちや人物像を捉えるためには複数の叙述を基にしながら捉えていくよう授業する。具体的には、物語全体を通して人物像等がわかる行動描写や会話文などに線を引き読解したことを書き込む。そして、つむぎ合いの場を設定し、協働して、それらを関係付けて人物像や気持ちを明らかにしていく授業を仕組む。

【課題2】

複数の資料を与え、資料からわかることを、教師が発問し、児童が答える場面を授業の中で設定する。必要なことを言葉で短くまとめる活動を多くする。

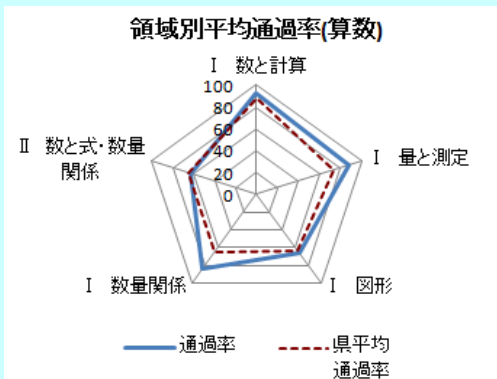
図鑑や解説本の読み方を指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年 標準学力テスト	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値			70%	80%	全国平均より3ポイント上	70%	80%
実施後数値			0%	55.3%			

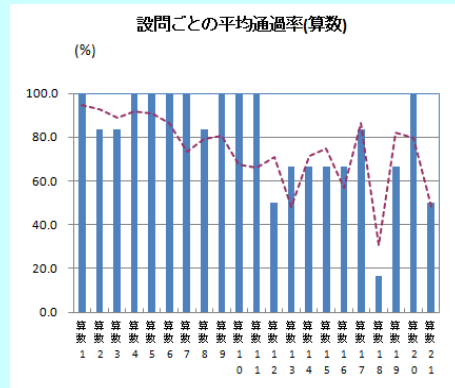
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年 標準学力テスト	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値			70%	80%	全国平均より3ポイント上	70%	80%
実施後数値			83.3%	77.6%			

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校80.2%, 県74.3%)

領域別平均通過率



設定JWSの通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向
算数の結果において、タイプⅠは85.4%、タイプⅡは63.3%の通過率となっている。タイプⅠについてはどの領域も県平均を上回った。しかし、タイプⅡは県平均を2.1ポイント下回った。基礎的・基本的な力はおおむね定着しているが、活用する力を意識して付ける必要があると考える。

○昨年度の課題への取組の結果
昨年度課題だった、「数と計算・数量関係」(タイプⅡ)については引き続き県平均を下回り、課題である。「見積もり」については、様々な場面を設定して見積もりを考えさせてきた。場面をきちんと把握すること、わかったことを適切に表現することには引き続き課題がある。

重点課題

【課題1】
三角定規で作った補角の大きさを求める力。(通過率50%)
→135度と回答した児童が16.7%、75度と回答した児童が16.7%、回答累計以外の回答をした児童が16.7%

【課題2】
グラフから読みとったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて説明する力。(通過率16.7%)
→条件③についてのみ回答した児童が50%、グラフの目盛の幅に関することのみ書いた児童が33.3%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】
実際に三角定規を操作させて、角度を作ったり、与えられた情報から角度を求めたりするなど、視点をかえて見る力をつける。
たくさんの情報の中から、必要な情報を選び問題を解く経験をさせる。

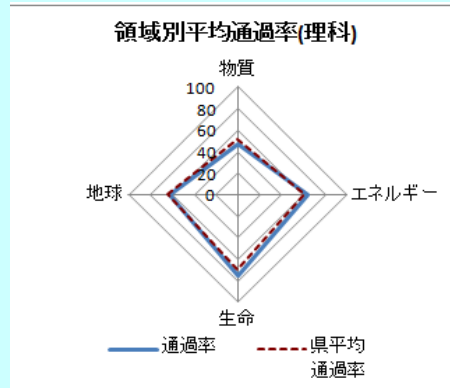
【課題2】
読み取る力を養うため、文章題(長文)の経験を多く取り入れる。1目盛の幅が違うグラフを比べて見る場面を増やし、違いを見つける活動を通して、グラフの読み方の定着を図る。
誤答から、「なぜ違うのか」を分析する機会を設定し、自分の考えと図や問題文をつなげながら、根拠を示して説明させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	3・4・5・6年生 標準学力テスト	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト
目標値			83.3%	83.3%	80.0%	81.8%	83.3%
実施後数値			66.7%	64.4%			

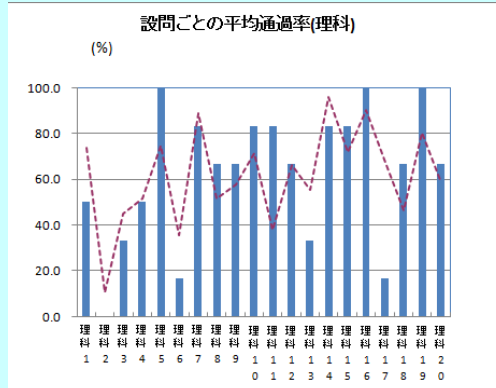
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	3・4・5・6年生 標準学力テスト	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト
目標値			83.3%	83.3%	76.0%	72.7%	83.3%
実施後数値			50%	56.1%			

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 62.5%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

理科の結果において、タイプⅠは71.2%、タイプⅡは51.9%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容の理解と知識・技能の活用の両方において、課題があると考える。特に物質の領域の通過率は46.7%と県平均を下回った。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は自然事象についての知識・理解について課題が見られた。そこで、実験・観察したことから決まりを発見したり、理科用語を使って自分の言葉で記述するよう取り組んだ。その結果、渡り鳥の越冬の通過率100%、太陽の位置と影の関係の通過率66.7%など成果が見られた。しかし、わけを文章で記述する問題は影のでき方の通過率16.7%と、依然として課題が大きい。

重点課題

【課題1】自然事象についての知識・理解について

影は太陽の光をさえぎるとできることを言葉で表現することに課題がある。(通過率16.7%)

→太陽と回答した児童が33.3%、かげと回答した児童が16.7%、回答類型以外の回答をした児童が33.3%

【課題2】

空気でっぼうの前玉が飛ぶ理由を検証する実験道具を選択する力に課題がある。(通過率0%)

→①の条件を満たしていない児童が33.3%、類型1～4以外で記号(イ)と答えた児童66.7%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

- ・実験や観察から分かったことと理由を言葉で表記することを習慣化させる。その際、使用させる言葉を示し、条件を付けて書かせる等、理科用語を使って説明する力を定着させる。

【課題2】

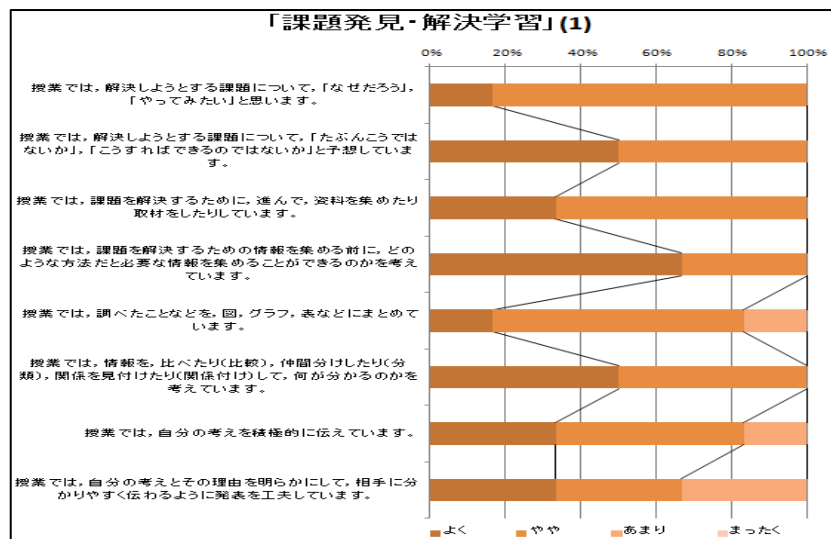
- ・必要な条件を考え、その理由を交流させる時間を確保する。
- ・教師から与えられたものではなく、児童が自分たちで条件を考えながら試行錯誤できる時間を確保する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	3・4・5・6年生 標準学力テスト	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト
目標値			83.3%	83.3%	75.0%	81.8%	83.3%
実施後数値			83.3%	69.7%			

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	3・4・5・6年生 標準学力テスト	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト
目標値			71.4%	83.3%	75.0%	81.8%	83.3%
実施後数値			33.3%	78.8%			

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

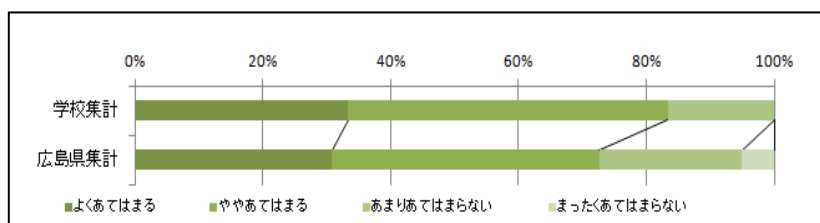
(1) 生活・学習



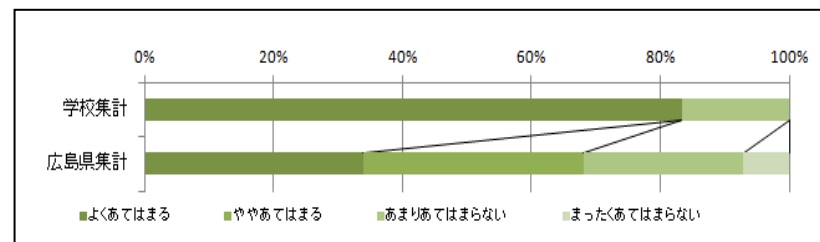
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。」と答えた児童の割合が、66.7%である。	・授業やパワーアップタイム等で、結論先行で理由をつけて話すなど、話型や言語技術を身につけさせる。	5	80%	児童アンケート	12月	100%	33.3%

(2) 教科

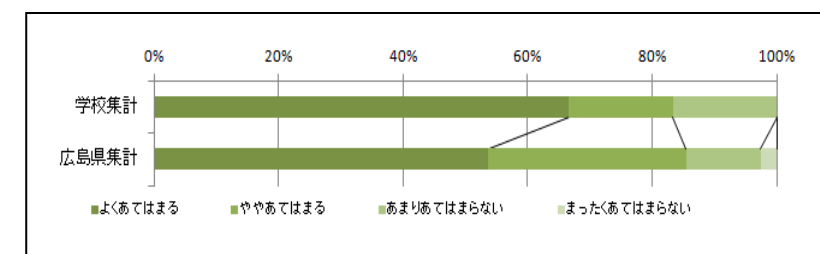
国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。」と答えた児童の割合が83.3%である。	・結論先行で伝えたいことを話し、その後、理由を話すようにする。また、話の組み立てメモをもとに話をさせる。 ・大事なキーワードをメモにとりながら、話を聞くようにさせる。	5	80%	児童アンケート	12月	100%	16.7%
算数	「算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」と答えた児童の割合が83.3%である。	・とき方や考え方を話し合うときに、問題・式・図を関連付けて理由を説明できるようにする。 ・友だちの説明に、付け加えたり補足したりさせる。	5	80%	児童アンケート	12月	100%	16.7%
理科	「理科の授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えています。」と答えた児童の割合が83.3%である。	・目的や視点を明確にして観察や実験を行い、ノートに必ず考察を書かせるようにする。	5	80%	児童アンケート	12月	100%	16.7%